

# 喫茶店と珈琲と私

お客様とのつながりを大事にする  
神保町にある喫茶店の魅力に迫る。

## 「さぼうる」の魅力

「さぼうる」は神保町にある老舗の喫茶店である。さぼうるではコーヒーや軽食を中心として提供され、隣にあるさぼうる2ではスパゲティなど本格的な料理が提供されている。さぼうるの店内には有線放送が流れ、薄暗い店内に合い、ゆっくりと落ち着ける雰囲気になっている。夜になると有線放送を止め、レコードが掛けられる。100枚近くもあるというレコードは、50年以上建ち続けるさぼうるの店内に柔らかく響き渡っている。

古くから今に至るまで愛され続けている魅力について、さぼうるのマスターに話を伺った。最初の一言が「魅力というのは私たちが決めるものではなくて、お客様が決めるものだから」というものだった。話を伺っていると、さぼうるとお客様との絆は深いものであることがわかる。店

内の雰囲気作りとして端々に存在する置き物は、さぼうるで用意したものではなく、お客様から頂いたものだそう。店先に植えられたカラスウリもお客様から頂いたものだという。都会の中で四季を彩る店先の顔は、お客様から頂いて作られたものだった。

老舗の喫茶店と、コーヒーのチェーン店との差別化は、店員との距離感ではないかと考えられる。マスターが、あるチェーン店に行った際、席に座ったまま店員を待たないがいつまで経っても訪れず、何も食わずに帰って来たという経験があるそう。チェーン店では店頭で注文をし、自分で器を持って席に着く。しかしそれに慣れていない人にとっては、飲食店とは店員さんが聞きに来てくれるのだと思うだろう。老舗の喫茶店の良さは、店員との距離



定番のチーズドッグ

が近く、珈琲を提供してくれる人の顔を見て、話しが出来ることだと思

う。  
さぼうるは今年で60年を迎え、マスターの年齢も81歳になるそう。開店から店の入口に立ってお客様を出迎えることは、足腰に辛くなって来たと言ってくれた。それはお客様にも言っているようで「マスターが立っていて欲しい」と頼まれることもあるらしい。さぼうるの歴史にマスターは必要不可欠だ。ご自愛頂き、これからも老舗ながらの喫茶店の良さを神保町で伝え続けて欲しい。  
(文・写真 江口みどり)

## さぼうる

神保町 1-11  
03 (3291) 8404  
神保町 A7 出口 徒歩 0 分  
9:00 ~ 23:00 日曜定休日  
祝日不定休



## 珈琲 エリカの魅力

老舗喫茶店が軒をつらねていることと有名な神保町。今回はその一つである「珈琲エリカ」を訪れた。大通りから一步はずれたその場所です。45年間、変わらぬ味でお客様に愛され続けている。その歴史を話してくれたのは「珈琲エリカ」のマスター、今はほぼ朝のモーニングから夕方まで一人で店を切り盛りしている。入口横のタバコ屋さんは以前入っていたお店の名残、レトロな内装は開店当初から変わっていない。温かみの



落ち着いた雰囲気店内

あるライトの下、あえて音楽をかけた店内からは隣の話し声や本のページをめくる音が静寂のなかから聞こえてくる。その落ち着いた空間の中でマスターが淹れた濃いめのブレンド珈琲からは優しい香りが出ている。まさに五感で味わうといっても過言ではないのだろう。この味と歴史を守り続けることにはどのような努力をされてきたのだろうか。

マスターはお客様の来る時間や恰好をみて「この人はどんな人なのか」と想像することはあっても進んでお客様とは会話をしないという。もちろん、ここに来るお客様にはそれぞれ立ち寄った理由がある。珈琲を飲みたい、会社の打ち合わせ、読書、外回りなど、珈琲エリカを訪れるお客様にマスターは応え続けている。ただ珈琲を飲むために何十年も通っている、ある日突然名刺をいただくこともお客様はお昼に予約席を用意するほど、親しい方もいるという。時代



マスターこだわりの一杯

は移り変わっても、長年愛されている理由はこのようなところかもしれない。

いまや本格的な珈琲がコンビニでも簡単に飲めてしまう現在、老舗喫茶店はいまも来るお客様に美味しい珈琲と優しい時間を与えてくれる。

珈琲エリカもまた来ると穏やかな気持ちになれる、そんなお店である。  
(文) 佐伯恵理子・写真 江口みどり  
編集 加納真香 日下部仁美 隈井彩

## 珈琲 エリカ

神田神保町 1-32-3  
(神保町駅より 194m)  
TEL. 03(3291)8411  
平日 7:00 ~ 18:00  
土曜 7:00 ~ 13:00  
定休日 日曜・祝日

